|  |  |
| --- | --- |
| 会議の結果 | |
| 件　　　名 | 令和５年度田辺市社会教育委員会議　第５回定例会 |
| 日　　　時 | 令和６年２月２日（金曜日）　午前10時15分～12時00分 |
| 場　　　所 | 田辺市東部公民館　大集会室 |
|  | ○社会教育委員  出席者13名：　尾崎委員、加藤委員、桐本委員、九鬼委員、久保委員、小山委員、  坂本委員、砂野委員、中根委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員  欠席者０名：  ○事務局５名：　那須生涯学習課長、太田生涯学習課参事、下岡生涯学習推進係長、  小林公民館係主査、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会

２．副議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第23回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について

（２）第50回新春田辺長距離走大会の結果について

（３）文化振興課行事予定について

（４）令和５年度二十歳を祝う式典の結果について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　特になし。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について、事務局より説明を行った。

　　　一般公開講座に係るチラシや会場図、タイムスケジュール案について確認したほか、参加者アンケートの項目やパネルディスカッションの進め方について協議を行った。また、東陽中学校出張講座のアンケート集計結果や当日の様子を踏まえ、各委員から発言いただいた。

【質疑応答・主な意見】

　　一般公開講座について

副議長：タイムスケジュールに関して、事務局から確認のあった配置換え時に休憩を挟むかどうかですが、長時間になるので様子を見ながら５分程度休憩を入れたいと思いますが、よろしいですか。

一同：異議なし。

副議長：パネルディスカッションの際、参加者の皆さんにも「田辺のしあさって」のキーワードを考えて共有してもらうということを冒頭に伝えておいたほうが、そのつもりで話を聞いてもらえると思います。書いてもらう用紙にも、「あなたの考える田辺のしあさって」ということを記載しておいてはどうでしょうか。

　　事務局：予め参加者にその旨お伝えするほか、用紙に問いを記載するよう対応します。

Ａ委員：考える時間を５分設ける予定ですが、事前予告はしておいた方がいいと思います。できれば、最初と休憩に入る際にアナウンスしておいてもらえればと思います。

議長：パネルディスカッションで使う用紙とマジック、アンケート等を手板に挟んでおいて、受付時に渡すということでいいでしょうか。

副議長：嵩張ると思うので、予め椅子に配置しておいてもいいかと思います。質疑はどうしますか。

Ａ委員：双方向型で実施するので今回はなしでもいいかと思いますが、質疑応答を含める場合はかなりタイトな運営になると考えています。他の部分も含めて、時間がないようであれば、各パネリストから２つずつとしているところを１つにすることで一定吸収できるとは思います。

Ｂ委員：タイムキーパーを配置して、時間管理するのも一つの手法かと思いますが、どうでしょうか。

　事務局：５分前、１分前のような形で時間管理ができるよう、何かしら用意したいと思います。

　　　　Ｃ委員：現状、質疑の時間を省略する形となっていますが、今回の講座を終えて、わからなかったことや疑問に思ったことが残ったままになってしまうことを懸念しています。質疑をいただいておいて、個別もしくは全体に発信するような形で返事ができるようなことは考えられないでしょうか。例えば、もっと聞きたかったことや疑問点をアンケートに記載しておくと、後で回答が返ってくるようなことはできないかと考えています。

副議長：パネルディスカッションの中で、質疑を拾うことは可能でしょうか。

　　Ａ委員：時間はタイトになりますが可能かと思います。参加者の演説にならないような工夫は必要かと思います。

副議長：質疑を集約して回答することも可能とは思いますが、事務局に苦労してもらうか、自分たちが手分けしてやるかになるかと思います。

　　　議長：誰が回答するかという問題もあるかと思います。

Ａ委員：質疑がどれだけあるかというのもありますし、内容によって進行の中で取り上げられるかという部分もありますので、とりあえず用意はしておきましょうか。フォームはこちらで作成して、ＱＲのみ事務局にお渡しするので、事務局で人数分印刷して配布いただければと思います。ＱＲに対応できない方は、手書きでもらうような形で対応かと考えています。

　事務局：ＱＲに対応できない方は、手書きしたものを事務局にいただければ、事務局がグーグルフォームに入力するような形はできるかと思います。

Ａ委員：休憩中に手書きの現物をこちらにいただいて確認しつつ、ＱＲで入力した分は手持ちのタブレットで確認するようにしたいと思います。時間の都合もあるので、場合によっては一つも拾えない可能性もありますが、一応確認できる形で手元に持っておくことにします。

　　　　副議長：アンケート内容について、４番の項目は不要かと思いますがいかがでしょうか。

　　　　Ｄ委員：改善点を聞かれても難しいと思うので、もっと聞きたかったことを聞いた方が答えやすいように思います。

Ｅ委員：満足度を聞く項目が上にありますが、その理由を聞くというのはどうでしょうか。他のアンケートでもよく目にする気がします。

　　　　副議長：Ｄ委員のおっしゃったことも聞いてみたい気がしますが、４番の修正については、Ｅ委員の案でどうでしょうか。

Ｆ委員：なぜこの講座に参加しようと思ったか、理由を聞いても面白いと思います。

議長：この講座をどこから知ったかというのも聞きたいところです。

　　　　副議長：なぜ参加しようと思ったかというのとどこから知ったかというのは切り分けて考えた方がいいかと思います。どこから知ったかというのは、申込のタイミングで聞いてもよかったかもしれません。

　　　　Ｇ委員：ＱＲ以外に申し込む方法はありますか。

　　　　事務局：裏面の下部に問い合わせ先として生涯学習課の連絡先を記載しております。

　　　　副議長：その他に意見がなければ、４番の改善点に関する項目を削除して、満足度の理由を聞く項目と参加した理由を確認する項目を追加する形で修正をいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

　　　　　一同：異議なし。

東陽中学校出張講座アンケート集計結果について

Ｄ委員：頸椎の手術で１か月ほど不在にしていましたが、皆さんのおかげで無事に講演会を実施することができました。ありがとうございます。学年の方も大変喜んでいます。今、立志式に向けて取組を進めていますが、やはり具体的な仕事のこと、お金を扱うことや経営のことなどは、外の方からしか聞くことができないので、そういった話をしてもらえたことがよかったと聞いています。また、地元の身近な大人からお話をいただけたこともよりよかったと聞いています。立志式当日は、生徒たちが漢字の一文字を選んで掲げ、自分の志をしっかりと宣言するほか、学年合唱をする予定になっていますが、そういったところのきっかけになったということで、学年の方からお礼を皆さんに伝えてもらいたいということを聞いています。本当にありがとうございました。私自身、感想を読ませていただいて、印象に残ったところでいうと、この話を聞いて気持ちが軽くなったという生徒がいて、非常にうれしかったというか、自分自身がそんなに焦らなくてもいいと思えたとか尊敬するという言葉もあって、やはり輝いてる人の話というのは尊敬につながる、何か始めてみよう、考えてみようというきっかけになっているのかなと、将来とか職業とか地元の良さ、それを前向きに捉えられる言葉が多くあったので、心に響くような話をいただいたと喜んでいます。人のつながりが大切だということも生徒たちが再確認できたので、それが立志式で自分の将来のことも言うけれども、今の自分の周りのつながりとかそういったものを大切にして頑張っていきたいというところにつながるのかなと思いましたので、本当にありがたいと思いました。会場の件で、候補としては東部公民館の大集会室と東陽中学校２階の多目的ホールの２か所あったんですが、最初の案では活動で交流も行うかもしれないということだったので、より広い方と考えて多目的ホールを確保しました。ただ、他の教室からの雑音ですとか、縦長の配置になったことで後ろの方が聞こえづらかったという意見もあって、公民館でやった方がよかったかなと後から思いましたが、そういったことも次回以降の課題と考えています。ありがとうございました。

　　　　Ｈ委員：周辺が騒がしくて聞こえづらかったと前の会議で発言したんですが、アンケート結果を見る限り、子供たちはあの環境の中でもちゃんと聞こえていたんだということが分かりました。また、そういう中で子供たちは暮らしているんだなということも同時にちょっとわかった気がします。そして、岡野さんの話がとても響いていたように思います。やっぱり母校の出身者で、勇気をもって自分のやりたいことに向かっていって、地元で頑張っているというのがよかったのかと思っています。東陽中学校としてはこれまでにも岡野さんとのかかわりはもっていたと思いますが、先ほどＤ委員がおっしゃったように、取組のきっかけとして事前にやったというところがよかったのかなと思っています。

　　　　Ｉ委員：自分が東陽中学校に通っている頃、立志式というのはなかったように思います。立志式と今回の出張講座はうまくリンクしていると感じましたが、他の中学校でも立志式はあるんでしょうか。

　　　　Ｄ委員：東陽中学校で立志式を始めたのは、新校舎を建設している頃だったと思います。キャリア教育を充実させていきたいという話の中で、いくつか取り組んだ中の一つが立志式だったと思います。１年生は入学式があって、３年生は卒業式があるけど、２年生は何もないということで、当時の校長先生からも立志式というのがあると聞いて、自分が担当する学年で進めていったものになります。立志式と聞いても、こちらではあまりなじみがないと思いますが、九州や四国では元服にちなんで立志式を行っている学校があり、そうしたことを調べながら始めたのがきっかけです。学年ごとにアレンジも入りながら進んできていますが、中学３年生になる前に進路や夢に向けて自分自身を振り返りながら今後どのように頑張っていくかを宣言するというのが現在やっている立志式になります。下級生も先輩の姿を見て、自分たちの新たなモチベーションにする。生徒一人ひとりが舞台に立って話をする機会というのもあまりないので、とても貴重な経験になっています。保護者の方も見に来ていただいて、ありがたい手紙もいただき、それも職員みんなで共有させてもらって、やってよかったという想いが原点にあって、立志式がずっと続いているということになります。他にも実施している中学校はありますが、東陽中学校で立志式を経験した先生が転任先でも継続しているケースが多く、私も中芳養中学校で立志式をさせてもらいました。

　　　　Ｇ委員：「りっし」とはどのような漢字を書きますか。

　　　　Ｄ委員：立てる志と書いて立志です。

　　　　Ｂ委員：子供たちにとっては大勢の前で宣言するという緊張感があって、参加する保護者も毎年涙しながら、という素晴らしい取組で、田辺では東陽中学校から始まり、長らく続いています。

　　　　副議長：教育委員会として方針を出せば、市内の中学校で導入されるかと思いますが。

　　　　事務局：学校教育課の所管で、また、本日は教育長や教育次長も不在としていますので、この場での回答は控えさせていただきたいと思います。

　　　　Ｂ委員：立志式をするとなると校長先生は大変だと思いますし、また、各学校でどのようなことをやっていくかというのはある程度校長先生に委ねられていると思います。

　　　　副議長：親の視点で言えば、立志式をやってもらってよかったと思いますか。また、子供たちは変わりましたか。

　　　　Ｂ委員：大勢の中で決意表明というのは覚悟がいるもので、内面的な部分かもわかりませんが、立志式の経験を通して子供たちは変わると考えています。全員がいいと感じるかどうかはわかりませんが、私は立志式があってよかったと考えています。

　　　　副議長：今回の講座がきっかけの一つになったというのは、我々としてもありがたい話だと思います。

　　　　Ｈ委員：大塔中学校でも、昨年度初めての立志式をやっていたと思います。大塔総合文化会館に看板が掲げられていて、作業をしていた先生に聞いたら午後から立志式があると教えてくれました。後日、知り合いのお母さんに聞いたら、すごくよかったという話をしてくれて、先生方は大変だと思いますが、先生自身が立志式をいいなと思って横に広げてくれているというのはいいなと思っています。

　　　　Ｊ委員：自分としては、東陽中学校が対象になっていて、岡野君も来てくれるということで、気分的に盛り上がっていたんですが、子供がインフルエンザにかかってしまって、見学も辞退させていただきました。アンケートも送っていただいたので読ませていただきました。悪いことは書かないんだと思いますが、割とポジティブな内容で受け止めてくれているという印象で、自分たちが携わっているという意味ではよかったと感じています。ちょうど先日、子供が立志式のプリントを持って帰ってきて、保護者に対する出欠の案内も入っていました。これまで子供３人東陽中学校を卒業させてもらったんですが、正直一度も立志式に参加したことがなくて、今年が最後のチャンスなので行かないといけないかなと思っています。振り返ると、立志式に向けて子供たちは頭を悩ませていたような気がしていて、真剣に向き合って考えていたのは良かったと思いますし、前に出ることに対して気恥ずかしさはあったと思いますが、そのおかげか今は物怖じせずに前に出られるようになったと思います。仮に、今回の講座を糧にして立志式の題材を見出した生徒がいたとしたら、今回やったことの意義があったかと思いますし、今回、保護者として立志式に参加することができる立場にあって、ある意味ではそういう観点から見ることもできるので、今回は出席しようかと考えています。

　　　　副議長：立志式というのはよくできていると思います。

　　　　Ｋ委員：内面の葛藤を持ちながらまとめ上げていくということだと思うので、すごいことだと思います。

　　　　Ｇ委員：立志式で生徒はどれだけ喋りますか。

　　　　Ｂ委員：選んだ一文字を掲げて、字にちなんだ決意や考え方を述べるのが主なので、一人ひとりの時間はそんなにかからなかったと思います。

　　　　Ｄ委員：文章量としては、原稿用紙半分（200字）程度を目安にしています。約90人の生徒がいるので、全体で２時間程度かけてやっています。

　　　　副議長：結局、今の話もアンケート結果もそうなんですが、中学生向けの市民カレッジ＋はやってよかったと思っていて、その辺も踏まえて次年度のことも考えていけたらと思います。

　　　　　議長：中芳養中学校がエンプラスで梅ジャムを販売したと思いますが、その辺はどうでしたか。

　　 副議長：すぐに売り切れました。ジャムだけじゃなくて、スコーンとセットで売るという校長先生のアイデアがとてもよかったと思います。紀伊民報も記事に取り上げてくれて、当日は出張だったので現場にいませんでしたが、オープン前から並び始めて、10分と経たないうちに売り切れたという話を先生から聞いています。

５．その他

　　　（１）田辺市民総合センター整備検討委員会学習会について

　　　　Ｂ委員：先日、武蔵野美術大学の若杉先生を講師にお呼びして、田辺市民総合センター整備検討委員会学習会が開かれました。検討委員会の関連団体からの出席も可能ということで、Ｈ委員にも参加いただきましたが、とてもいい講演でした。大人が考えた遊具や遊びでは子供は遊ばない、子供目線で環境を考えていくと自然にできあがっていくというお話でした。若杉先生は、エンプラスの基本構想と基本設計に携わっていただいた方で、木を活用したデザインを多くされています。見せていただいた資料では、子育て支援施設に木の玉のプールを作られていましたが、その木の玉を地域の方に磨いてもらうなど、作っていく過程で地域の人たちを巻き込んでいくアイデアを紹介いただきました。始めから終わりまでワクワク感が止まらないような話で、大人が考える子供に合わせたものではなくて、子供目線で考えていくことを大切にしながら、かかわる人を広げていくデザインを積極的に実践されていて、社会教育委員でもそうなんですが、高校生を巻き込んでいこうという視点でやっていますが、そういうことが一番大事なんだと教えていただいた気がします。

　　　　Ｈ委員：最初から最後まで楽しい講演を聞かせていただきました。木を使うことに着目したのは、地域を活性化するための木がそこら中にあるじゃないかという気付きからだったと聞きました。子供目線になるということは、自分が小さいときにどんな遊びをしたかということでもあって、自分も子供のときに何をして遊んでいたか聞きながら考えました。お人形遊びをしたなと思いながら、でもお人形がないときに何を使って遊んだかというと葉っぱや草木だったと思いだしました。土があったら泥団子を作ったなとか、自然のものを使って遊んだという楽しかった思い出があると、あのときこうだった、こんなのはどうだろうというように掘り下げて考えられると思いました。だから私も話を聞きながらワクワクしたんだと思います。あまりに楽しかったので、終わった後、若杉先生にそのことを伝えにいくと名刺をいただきました。私は雪がほとんど降らないところに住んでいたんですが、雪が降って雪合戦がしたいとなっても積もらないので、裏山の松ぼっくりをバケツ一杯に拾ってきて、目の前にあった広い駐車場で、そこに友達10人程集めて松ぼっくり投げをして遊んで、地域の人に怒られたということを思い出しました。そこに松の木があったからやったという記憶があるんですが、子供目線というのはそういうことかなと思いました。

　　 副議長：私は若杉さんの話を何度か聞いていて、絶対皆さんにも聞いてもらいたいと思っていました。すごく印象深いのは、子供のおもちゃに対する考え方で、ショッピングセンターの子供スペースなんかもカラフルな可愛らしい場所にしていると思いますが、そんなのはまったく必要なくて、子供は棒っきれと石ころがあればそれで遊びを考える、そういう生き物だというようなことをおっしゃっています。確かに、昔はおもちゃがなくてもそこにあるもので遊んでいて、そう考えると今は大人の考えたおもちゃがありすぎて大丈夫かと思う瞬間があります。新しい市民総合センターがどうなるのか少し不安も感じるところですが、今回の話を踏まえて、新しくできる施設がかっこいいものになっていったらいいなと思いました。また、若杉さんはとにかくプロセスが大事だということを繰り返されている方で、こないだの学習会でも同様でした。施設を作るにあたって、みんなでどんな場にするのか議論する、方向性が固まったときにそこに入れるおもちゃをみんなでつくる、おもちゃの材料になる木の生えている現場を見に行く、そこを育ててきた方々の話を聞く、木工細工を作っている職人さんの話を聞く、それらをやった上で木の玉をみんなでつくるといったようなことを積み重ねていくと、建物が完成したときには、市民の施設になっているというような話で、すごく面白くて好きな話なんですが、若杉さんが監修した九州の子育て支援施設の木の玉のプールをそういうプロセスでつくってオープンしたときに、自分の磨いた玉があるかなと参加してくれていた親子が来てくれたという話があるらしくて、そんな段階を踏んで、市民総合センターもできたらいいなと思っています。そして、その現場を誰がどのように仕切るのかというところが大事な話で、市の事務局が担ってもいいですし、外注するのもいいと思います。日南市の子育て支援施設のコトコトというのが、エンプラスをやってくれた若杉さんと辻さんのチームがその過程をずっとサポートしていたそうで、いいものができています。そのやり方を、田辺市も踏み込んで実際に実現してもらえたらすごくいいなと思っていて、Ａ委員にはぜひそうした舵取りをお願いできればと思います。それくらいにいろんな学びのある講座でした。

（２）次回定例会の日程について

　・第６回定例会の日程について、３月27日（水）午後２時から中部公民館（田辺第一小学校併設）の　大集会室にて行うことを連絡。

６．閉会　議長挨拶